

新幹線の新たなバリアフリー対策について

(「新幹線のバリアフリー対策検討会」におけるとりまとめ 令和2年8月28日)

東京オリンピック・パラリンピック競技大会を迎えるに当たって

- 東京オリンピック・パラリンピックを契機として、**障害の有無にかかわらず、誰もが快適に移動や旅を楽しめる環境整備に向けた気運の高まり**
- 成熟社会である我が国にとって、今大会の**レガシーは「真の共生社会」の実現であり、それに向けて力強く前進する「歴史的転換」が求められている**

「真の共生社会」に相応しい、あるべき新幹線の姿

- 現在の一般客室内の車椅子スペースは、
 - ① **数が限られており**(1編成につき1~2席)、グループで乗車することができない
 - ② 車椅子に乗ったままでは**通路にはみ出してしまう**
 - ③ 予約・購入に当たっては、介助者(駅係員)確保等により**時間を要する場合がありますほか、ウェブ上で予約・購入手続きが完結しない** などの課題

東京大会のレガシーとなる「真の共生社会」の実現に向け、**新幹線のバリアフリー化はその象徴となるべきもの**であり、誰もが当たり前、快適に移動や旅を楽しむことができる、**世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道の早期実現**を目指す。

新幹線の新たなバリアフリー対策と今後の取組

速やかに実施する対策

(1)「車椅子用フリースペース」の導入

- 座席数に応じて1編成に3~6席(多目的室を除く)の車椅子が利用可能
- 移乗の有無や介助が必要な方、ストレッチャー式車椅子使用者など、様々な障害の状態に対応可能なレイアウト
- ウェブ上で予約・購入が完結するシステムの導入

(2) 現在の車椅子対応座席(*)等の予約・販売方法の改善

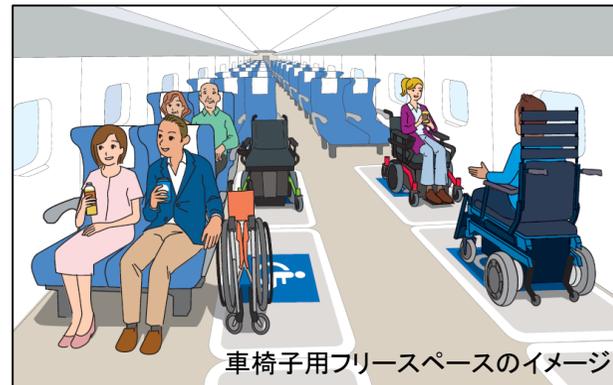
- 窓口における発券手続きの見直しによる待ち時間の短縮等
 - ウェブ申し込みの改善(申込期限の短縮等)
- ※車椅子スペースに隣接し、車椅子使用者が当該スペースを利用する際に予約する座席

新たな新幹線車両の導入時など中長期的に取り組む事項

- 今回整備する車椅子用フリースペースの利用状況等を踏まえつつ、座席種別ごと(グリーン車や普通車自由席等)への車椅子用フリースペース拡充を検討
- 授乳室の整備など車椅子使用者にとって利便性の高い多目的室の利用環境や介助者と共に利用できる車椅子対応トイレなど車内設備の仕様等について検討

早期実現に向けた取り組み

- 世界各地から多くの方々が訪れる東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、車椅子用フリースペースの導入を始めとする世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道の実現に向けて関係者が一丸となって取り組む



新幹線における車椅子用フリースペースについて

1. 車椅子用フリースペースの基本的な考え方

隣の座席への移乗が困難な方、保護者の付き添いや介助が必要な方など様々な障害の状態に対応し、障害のある方が一般の方と同様にグループで快適に乗車できるよう、車椅子用フリースペースを一般客室に設ける。

2. 車椅子スペース数の考え方

1編成あたりの提供座席数に応じて以下のように設定(グリーン車を除く)

1編成あたりの座席数	車椅子スペース数	備考
1000を超える場合	総席数の0.5%※)以上	多目的室を含む
500~1000席	5席以上	
500席未満	4席以上	

※)国際パラリンピック委員会「アクセシビリティガイド(2013年6月)」による競技会場における車椅子座席の割合(一般の大会)

3. 車椅子用フリースペースの具体的な要件

- ① 少なくとも2人以上の方が車椅子に乗ったまま窓際で車窓を楽しめること
- ② 車椅子用フリースペースの通路は、乗客やワゴン等の通行に支障のない通路幅を確保すること
- ③ ストレッチャー式車椅子を含む大型の車椅子の方が2人以上で利用可能なこと
- ④ 車椅子使用者の移乗用席を2席以上※1)、それに隣接して※2) 介助者もしくは同伴者の席を2席以上※1) 設けること

※1) 座席数500席未満は1席以上

※2) 車両の構造上の理由等により「隣接」とすることが困難な場合は「近接」も可とする



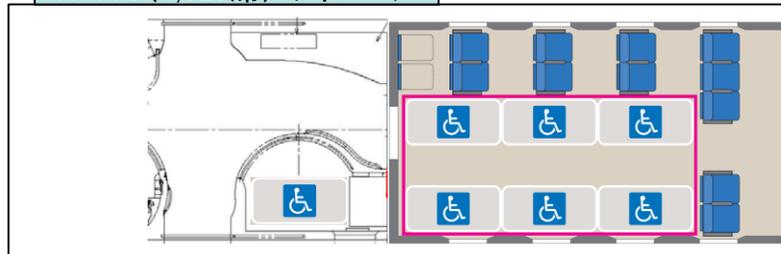
現行のN700S(車椅子スペース2席)



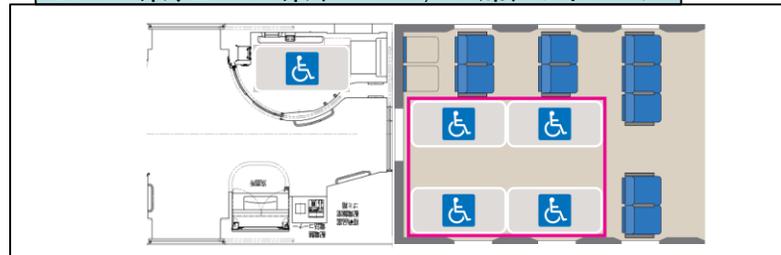
実証実験(8月3日)におけるN700S試験車両のレイアウト(車椅子スペース6席)

(参考) 主な新幹線車両に当てはめた場合

N700S(1,323席)のイメージ



E5・H5系、E7・W7系(500~1,000席)のイメージ



ミニ新幹線E8系(500席未満)のイメージ



※2024年春導入予定

【凡例】



: 車椅子用フリースペース



: 車椅子スペース

車椅子用フリースペースの整備に向けた利用環境の改善について

中間とりまとめ以降実施した対策

- 令和2年3月14日 これまで当日には一般の方にも販売していた普通車指定席の車椅子対応座席については、販売方法を変更し、当日においても車椅子使用者用に確保することとした
- 令和2年4月20日 車椅子対応座席を利用する際の案内方法について、2日前までの申し込みを求めない形に変更した(5月号の時刻表から)
- 令和2年5月11日 これまで電話や窓口での申し込みが必要であった車椅子対応座席について、全ての新幹線においてウェブによる申し込みを可能とした。複数の新幹線を跨いだ行程にも対応するため、各新幹線のウェブサイトを相互に参照できるよう設定した

車椅子用フリースペースの導入を見据え、予約・販売方法を改善し、車椅子使用者の新幹線における利用環境をさらに向上させるべく、以下の対策を講じる

1. 車椅子用フリースペースに対応したウェブ予約システムの導入

- ① 東海道・山陽新幹線において、車椅子用フリースペースの導入を待たずに車椅子対応座席のウェブでの予約・購入を試行実施^(注)し、利用実態や利便性を検証^(年度内に準備の上、オリパラまでに実施)
- ② 新たに整備される車椅子用フリースペースについては、車椅子スペースをウェブで予約から購入まで完結する利便性の高い予約システムを導入^(車椅子用フリースペースの整備の進捗に伴って全新幹線で導入)

2. 現在の車椅子対応座席等の予約・販売方法の改善

- ① **窓口における乗車券類の発券の待ち時間の短縮等**^(年度内より順次実施)
 窓口における待ち時間の短縮を図るため、介助要員の配備が比較的充実し、かつ設備や環境の整備が整っていると予め確認できる新幹線主要駅間から関係部署の承認を待たずに発券できるよう業務フローの一部を見直す
 発券後から乗車までの所要時間についても、引き続き、利用の繁閑に応じた係員の配置や駅における乗車までのプロセスの改善等により、所要時間が短縮できるよう改善を図っていく
- ② **ウェブ申し込みの改善**^(年度内に準備の上、オリパラまでに実施)
 中間とりまとめを受け改善を行った車椅子対応座席のウェブ申し込みについて、申込期限の短縮等によりさらなる利便性の向上を図る

(注) 以下の点に留意しながら、試行的に実施し、検証を行う(実施内容は調整中)。

- ・車椅子使用者が当日も車椅子対応座席を確保できるよう一般利用者には予約させない措置を講じているが、本措置を実施するには、システム上誰でも予約可能な状態に戻すことが必要
- ・「なりすまし」の防止措置が必要であり、予約画面等で注意喚起を実施
- ・予約システムを導入することで、座席の予約と介助の手配が別となるが、単独乗降を推奨するものではないため、車椅子使用者自身が事前に確実な介助申込みを行うことへの理解が不可欠
- ・ウェブ利用者以外の方の利用環境を維持するため、複数の車椅子対応座席の一部のみをウェブ用に確保することが必要

<ウェブ予約画面イメージ(試行時)>

	E	D	C	B	A
13番	○	○	■	×	×
12番	○	○	■	×	×

	E	D	C	B	A
13番	○	○	■	○	○
12番	○	○	■	×	×

画面上で選択可能

